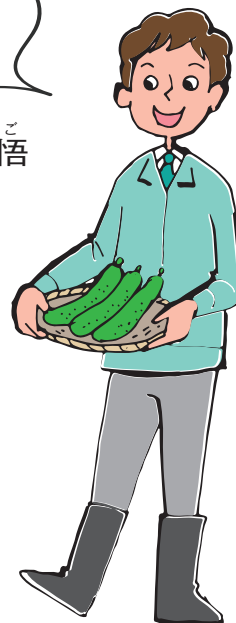


キュウリ

高温下でしおれにくい品種選定と健全な根張りを促進

タキイ研究農場 ^{ばん ぼ}馬場 ^{だい ご}大悟



品種選定

☀️ 複合耐病性種の「Vシュート」

「Vシュート」の特性に、葉が厚く葉色も濃いため、高温下でもしおれにくいという点があります。また、主枝の雌花性は40%程度で初期の着果負担が軽く、収穫開始までに株作りや根圏を充実させることができ、長期間の収穫が可能です。近年は酷暑やゲリラ豪雨の影響で一気に草勢が低下し、8月以降に褐斑病が問題になることが多



↑高温期にしおれにくく長期どりに向く「Vシュート」。

いですが、「Vシュート」は従来種にある、うどんこ病、べと病、モザイク病(ZYMV)に、褐斑病、黒星病、モザイク病(PRSV)を加えた6病害に耐病性をもつため、これからキュウリ栽培を始める方にも安心してお使いいただけます。

☀️ 食感・食味が人気の「シャキット」

「シャキット」は、初期生育はゆっくりですが、主枝の節間が短く葉も厚いので、耐暑性にすぐれています。一方、寒さは少し苦手なため定植は5月中旬以降がおすすめです。うどんこ病、べと病、モザイク病に強く、減農薬栽培や家庭菜園にも使いやすい品種です。見た目が特徴的なイボが多い四葉系の果実ですが、長さは一般的な白イボキュウリと同等サイズで収穫可能です。歯ざわりがよくほのかに甘みもあるので、食味にすぐれた品種として直売所でも人気のキュウリです。



↑奥が「夏すずみ」。手前がイボが多く特徴的な見た目の「シャキット」。

栽培ポイント

☀️ 健全な果実を長く収穫するコツ

キュウリの根は浅根性で、酸素要求度も高くほとんどの根は畝の上部に分布します。定植は、畝表面と同じくらいの高さか、苗土の上部が1〜2cmほど出るくらいの浅植えをおすすめします。浅植えにすることで活着が早まり、空気に触れることで丈夫な不定根の発生を促せます。また、根群の充実を図るため「スターク」などの強勢台木の利用がおすすめです。さらに「トレエース」や「メネデル」、バイオステイミュラント資材の「ライゾー」などの資材を定植の前後に活用し、高温でもしおれに強い根圏の生育をさせることが長く健全な果実の収穫に効果的です。

☀️ 高温下でより注意するべき、病虫害対策

近年の高温下で問題になってきている害虫は、雨の少ない乾燥年には特に注意が必要です。

アブラムシ ZYMV、WMV、CMV、PRSVほかモザイク病を媒介します。

特に定植後の生育初期に感染すると重症化しやすいので、初期の防除が肝心です。

ハダニ 収穫最盛期を迎えて草勢が低下してくる7月下旬ごろから発生が目

立ってきます。草勢低下で葉色が抜けているように見えることがありますが、実はダニによる被害であることが多く、気づいた時には手遅れであるほど一気に広がります。目視ではわかりづらく増殖してしまうと薬剤も届きにくいので、定期的に適応する薬剤を散布して、出始める時期に増殖させない防除が大切です。

鮮度保持やしおれ軽減にタキイオリジナル資材

『タキイトレエース』



←
トレハロースの性質を生かした微量要素肥料で、蒸散を抑制させることでしおれの軽減や、乾燥後の植物細胞やたんぱく質の状態を安定化させ失活を抑える。また、植物のもつ特有のくさみ、渋み、苦み、えぐみなどが低減され、食味の向上が期待できる。

根の伸長を促すバイオステイミュラント資材

『ライゾー』



←
天然資材由来の作物の根域活性化を目的とした根張り促進型肥料。生育初期、移植時、降雨時、低温時などに使用のほか、開花期や果実肥大期など養分を必要とする時期にも効果的。